

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 JA金沢市砂丘地集出荷場トマト部会
都道府県 石川県
対象地域 金沢市
対象品目 トマト



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

実証地区は石川県内最大の園芸地域であるが、近年コナジラミ等の多発生を受け、特にきゅうり、とまとなどの施設園芸品目の継続が危ぶまれている。地域では若手を中心に減農薬への取り組みに意欲的であるが、実証地区は狭い地域に園芸栽培施設が密集しているため、病害虫の広がりは一瞬であり、二の足を踏んでいる。

そこで、発生予察を行うことで効率的な防除を行うほか、化学由来農薬ではない気門封鎖剤の活用やコナジラミの侵入対策に効果があると言われているUVカットフィルムや機能性の高い防虫ネットなどを試験導入し、地域計画にも位置づけた減農薬栽培を検討し、グリーンな栽培体系を確立する。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	きゅうり 又は 太きゅうり			トマト栽培								きゅうり、太きゅうり栽培	
技術名	・1mm防虫ネットの展張 ・化学由来農薬による定期防除												



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
主な作業名	きゅうり 又は 太きゅうり			トマト栽培									きゅうり、太きゅうり栽培	
技術名	・0.4mm防虫ネット、UVカットフィルム、光反射による防虫シートの活用によるコナジラミの侵入抑制 ・気門封鎖剤を活用した化学由来農薬の使用回数減													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	6.7	▶ 6.7	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	2	▶ 3	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	2	▶ 3	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	2	▶ 3	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境省力	化学農薬のみの防除	▶ コナジラミの発生予察を活用し、化学由来ではない気門封鎖剤を組み合わせた化学由来農薬の使用回数低減	化学農薬の使用回数の削減
環境省力	化学農薬のみの防除	▶ 0.4mm防虫ネット、UVカットフィルム、光反射による防虫シートの活用によるコナジラミの侵入抑制	化学農薬の使用回数の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境省力	化学農薬の使用回数（回） （化学由来殺虫剤を気門封鎖剤へ切り替え）	14	▶ 11	
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

・現地検討会による実証内容の見学や実証報告会の実施

関係者の役割

関係者名	JA金沢市砂丘地集出荷場トマト部会	金沢市農業協同組合	石川県県央農林総合事務所	金沢市農業センター
役割	実証実施/栽培マニュアル・産地戦略策定	事務局/栽培マニュアル・産地戦略策定	技術指導/実証は調査/ 産地戦略・栽培マニュアル作成	実証は調査

その他